みどりの風

2021.4.1
−NO.271−

千代田界隈のレトロな風景

こぶし

さくらより10日早く、全開。
（千代田2丁目にて）

人・ひと日記

小林　功

最速のスピードで桜の開花が進んでいるようです。桜の待ち遠しさがいつもとは違うような気がします。冬が暖かったせいなのか？。一年も続いたコロナ自粛で気持ちが晴れないせいなのか？・・・多分両方のせいだと思います。本日（3/18）政府の緊急事態宣言が解除される模様です。毎日の感染者数の速報をみると100人とか400人の変動は人口全体の大きさから見れば誤差範囲、あるいは制御不能のレベルだと思います。この状態がずっと続くような気がします。

ワクチンの優先摂取は「医療従事者」「６５歳以上の高齢者」「基礎疾患のある人と高齢者施設（入所系）の職員」とされていましたが「在宅系サービス職員」も対象に加えられることが国会の質疑の中で明らかになりました。病床のひっ迫で感染しても自宅療養をせざるを得ない場合があることへの対応策です。市町村毎の判断によりますが訪問介護、通所介護、居宅介護支援の職員が該当します。まだまだ緊張状態は続きます。

三月は「別れ」の季節。デイの昼休みの合唱タイムでは卒業式シリーズで「蛍の光」「仰げば尊し」を歌っていますが今年は「思い出のアルバム（千代田編）」を追加しています。ボランティアで活動してくれた故・片山さんの替え歌です。千代田デイでの季節ごとの出来事が織り込まれています。春はお花見ドライブ、桜餅づくり。夏はおみこし、かき氷、盆踊り。秋は運動会。冬は忘年会、餅つき、初詣、福は内・・・。

児童クラブ「いちばん星」では３人の６年生（るみちゃん、あいこさん、れんなさん）のお別れ会。ここではオリジナル編の思い出のアルバムを合唱しました。

ＢＳで寅さんシリーズを毎週放送中。録画しておいて時々観ています。先日はリリー（浅丘ルリ子）がマドンナで登場。二人が出会うのは奄美大島。リリー宅へ居候中の寅さん。そこへ失恋のダメージ深い満男が転がり込む。３人がくつろぐシーン。食卓の上に見覚えのあるボトルが映っている。巻き戻しで再確認。それは奄美の黒糖焼酎。ＯＫストアーでも売っている。

今年はこれで行きましょう。今はお湯割り、そして水割りへ。

発行　社会福祉法人　悠朋会
相模原市中央区千代田２-４-１
千代田デイサービスセンター
０４２-７５１-０６７２
ヘルパーステーション千代田
０４２-７０４-０２６１
千代田介護支援センター
０４２-７０４-０２８１
児童クラブ　いちばん星
０８０-５８６５-１５８６

ホームページアドレス
www.yuhokai-kaigo.com

☆入江さん100歳おめでとうございます☆

令和3年3月3日、桃の節句ひな祭り
この日は利用者さんの入江ハツ子さんの100歳のお誕生日でした☆
山口県で生まれて、広島、関西、東京で過ごされた 入江さんは千代田デイサービスには２０１６年からご利用されていますが、柔らかい関西弁で職員、利用者さん、周囲の人たちを癒して下さっています。
100歳おめでとうございます☆

4月 予定

お花見外出　　予定
書　道　　8日(木)、23日(金)
体重測定　　5日(月)～11日(日)
誕生会　　24日(土)～30日(金)

9月は「世界アルツハイマー月間」
オレンジの花で彩りを

喜びを分かち合い、笑顔でつながる仲間たち

さがサポ

オレンジガーデニング

プロジェクト

「喜びを分かち合い、笑顔でつながる仲間たち」をメインテーマとして
「笑顔とありがとうがあふれる相模原」を目指して、認知症になっても
住み続けたくなる「お互い様の街づくり」を行っています。
その一環として「オレンジガーデニングプロジェクト」を実施します。
是非皆様もご一緒に相模原をオレンジ色に染めていきましょう！

＼おススメの花／
キバナコスモス
マリーゴールド

世界アルツハイマーデーの9月にはオレンジ色の花を咲かせましょう♪

オレンジ色は認知症啓発のシンボルカラー。「笑顔とありがとうがあふれる相模原」を目指して、認知症になっても住み続けたくなる「お互い様の街づくり」という思いを共有し、相模原市内でオレンジ色の花を咲かせましょう。

ご自宅や、施設・職場・地域で、一人でも、家族・友人と一緒でも、いろんな所で、いろんな形で、花を育てながら成長も楽しんでください。そして9月には、思いのこもったオレンジ色の花をたくさん咲かせ、相模原の各所で癒やしと元気を与えてくれることを願っています。

この活動を通して、認知症について考え、周囲の人と話をするきっかけになったり、認知症の人と一緒に花を育てたりして、認知症になっても暮らしやすい相模原をみんなで創っていきましょう。

成長の様子や咲いた花をさがサポ公式LINEかメールにて送ってください

9月21日が世界アルツハイマーデーということで、今回のプロジェクトではオレンジ色の花を921本咲かせることを目指しています。ぜひ皆様の育てたお花の写真をメールか公式LINEに送ってください。送っていただきました写真はさがサポのホームページやFacebookにて紹介させていただきます。

さがみはら認知症サポーターネットワーク
LINE 公式アカウント

主催：さがみはら認知症サポーターネットワーク
共催：友知草の会　相模原市若年性認知症家族の会じゅりの会　ふじの介護者の会

お問合せ：さがみはら認知症サポーターネットワーク事務局
電 話：042 - 707 - 1603　FAX：042 - 786 - 6631
ＨＰ：https://sagasapo.com/　メール：saga-sapo@link-npo.com

職員随走リレー
～其の十四②～

ケアマネジャー
菊地　歳光

フォークソング好きのおじさん　その２

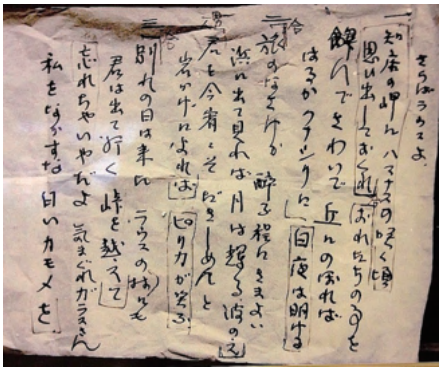
前回ご紹介しました、“母に捧げるバラード（♪今も聞こえるあのおふくろの声・・）”がヒットする少しまえ、加藤登紀子が歌う「知床旅情」（作詞作曲：森繁久彌）がヒットし、年末の紅白でもその歌を披露しています。良い詩と思いながらも何故か私には響くものがなかったのですが徐々にとても大切な歌だと知ることに至ります。

父に連れられて初めて観た映画は今でもおぼろげに記憶があります。館内は満員で立見だったような気がします。その映画の舞台は北の果て、知床です。漁師小屋を守る老人と何匹かの猫が一緒に住んでいます。その猫が流氷に乗って遊んでいるうちに流氷ごと流されてしまい、老人も氷に乗って必死に猫を追うのですが流氷の流れには敵いません。やがて氷から振り落とされ氷と氷の間に挟まれ、目の前で海水と泡がぐるぐると渦を巻きます。やがて断崖下の浜に流れつくのですが、真冬の浜は過酷です。

そのシーンが子供心にとても心象に残ったのです。

そして月日が流れ、何かの拍子にその映画の題名が「地の涯に生きるもの」であり、主演が森繁久彌と知るのです。そして、その後のインターネットの普及から知床旅情の誕生秘話へ。

老人を演じた森繁久彌は、ロケが終わってその舞台の羅臼を去る際、大変お世話になったお礼に歌を贈りたいと言って、ギターで弾きながら即興で歌った歌が「サラバ羅臼」、のちの「知床旅情」だったのです。それは昭和35年のことだった様です。



そのような事を知るに至り、映画の老人と父の生きざまが重なったりしてこの歌は私にとってとても大切な歌になっていくのです。

この映画はＤＶＤ未発売の様で今では観ることはかなわないのですが、ケーブルＴＶなどでの放映を期待しています。

ネットで検索できる、森繁久彌のギターのつま弾き、障子紙に書いたと言われる歌詞、映画のポスターもご覧ください。

編集後記

花粉の時期でもありますます自宅に閉じこもっています。一日一万歩のウォーキングは続けていますが、もちろん体重は減りません。最近辛めの担々麺にハマっておりますが、それが原因とは分かりつつ、朝食に夜食に食べております。　Ｈ